

令和4年第7回教育委員会会議

1 日 時

令和4年4月22日(金)

開会 10時

閉会 10時59分

2 場 所

県庁行政庁舎 17階 教育委員会室

3 出席者

北野喜樹教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、眞鍋知子委員、高野勝委員、浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

中山隆志教育次長、塩田憲司教育次長、金子俊一教育次長、太田大樹庶務課長、岡橋勇侍教職員課長、北島公之学校指導課長、岩木智子生涯学習課長、辻江冬樹文化財課長、居村吉記保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第8号 令和4年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について（原案可決）

6 報告事項

報告第1号 令和5年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について

報告第2号 体罰に関する調査について

報告第3号 令和4年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について

報告第4号 令和2年度～令和3年度石川県社会教育委員の会議のまとめについて

報告第5号 令和3年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

北野教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第8号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

報告第1号 令和5年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の実施について
(岡橋教職員課長説明)

まず、1の「公立学校教員採用候補者選考試験」についてであります。(1)の「試験期日等」につきましては、出願受付は4月25日～5月27日、7月16日・17日に筆記及び実技試験、7月30日または31日に面接試験を行い、10月7日に結果の発表・通知を行うこととしております。(2)の「受験区分・募集教科」につきましては記載のとおりであります。今年度は29年ぶりに能登高校の教科「水産」の教員の募集を行います。(3)「採用見込数」につきましては、5月1日の児童生徒数の確定等を踏まえて決定し、5月中旬頃に発表することとしております。(4)の「受験資格」につきましては、これまでどおり50歳未満としております。(5)の「選考区分」につきましては、一般選考と5つの特別選考を設け、太字で記載している特別選考区分Vが昨年度との変更箇所であります。(6)の前年度との主な変更点の箇所をご覧ください。まず、教科「水産」については、先程申し上げましたように、29年ぶりに実施をするものであります。採用者は、県内で唯一、教科「水産」を開設している能登高校に配置する予定です。なお、一級小型船舶操縦士の資格を有する受験者に10点の加点を行うこととしています。また、特別選考区分Vに関してありますが、小学校は近年倍率が低下している現状もあり、優秀な教員を確保していくことが求められます。そのため、新たに、新卒の優秀な学生を対象に石川県教育委員会が指定する大学、具体的には、小学校の免許を取得することができる、金沢大学、金沢学院大学、金沢星稜大学、北陸学院大学の学生で、大学の推薦を受けた受験者に対する特別選考区分を設け、試験のうち、筆記試験及び実技試験を免除することとします。

2ページの上段の「2 栄養教諭の選考試験」及び下段の「3 栄養教諭の特別選考試験」につきましては、いずれも、小中学校において、食の指導や給食の管理・運営に携わる栄養教諭の採用を行うものであります。上段の「選考試験」は栄養教諭を採用するもので、令和元年度より実施しており、また、下段の「特別選考試験」は、現職の学校栄養職員のうち、栄養教諭の免許状を持つ者の中から、栄養教諭への任用替えを行うものであります。任用替えは、栄養教諭の制度が出来たことを受け、平成18年度より実施しているものであります。これら栄養教諭の試験も、教員採用候補者選考試験と同日に実施することとしております。

また、これらの実施案内は、4月25日より県庁等で配布します。受験者が余裕を持って準備に取りかかれるよう、前年度より10日程度、出願期間を長くしたところでもあります。なお、試験実施に係る新型コロナウイルス感染症への対策は、その時点での感染状況を踏まえた対応を行うこととしておりますが、一昨年度より、1つの教室で受験する人数を減らし、受験者どうしの間隔を確保する、受験者にはマスクの着用と当日の朝の検温をしてもらい、会場入口での手指消毒を行う、休憩時間毎に試験会場の換気を行うなどの対策を施しております。

また、多くの方々に本県教員をめざして受験していただくため、例年実施している大学訪問を継続して参ります。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の措置を講じながら、春には、県内外で14大学、秋には、主に大学3年生を対象として、オンラインでの説明も含め、県内外23大学において、説明会を実施いたしました。今年の春も、県内外において大学訪問を行い、教員のやりがいや充実した研修制

度、石川県の教育力、石川県の住みよさについてアピールしてまいりたいと考えています。さらに、多くの大学生が登録している「いしかわ就職・定住サポートセンター」を通じて、情報のメール配信や、県ホームページで石川の教育をアピールする動画をインターネットで配信し、多くの学生に、本県の教育や教職の魅力を伝え、優秀な人材の確保につなげていきたいと考えています。また、現在、いしかわ師範塾においては、石川県の教員をめざして、受験予定の第9期生となる大学4年生と大学院2年生が、豊富な経験をもつ指導員のもと、教員の心構えや実践的な力を身につけるために学んでいるところです。

なお、選考にあたりましては、筆記試験、実技試験及び面接試験を通して、教員として豊かな教養と専門的知識を有することに加え、児童生徒に対する教育的愛情を持ち、指導力・実践力のある人材を採用したいと考えております。

【質疑】

(新屋委員)

特別選考で、新たに推薦を受けた方の区分を設けるということですが、具体的にどのくらいの割合、人数を想定しているのでしょうか。また、全国的に小学校の倍率が低下しているため、こういったことを実施するのかと思います。他県でも同じことをしているのでしょうか。

(岡橋教職員課長)

特別選考の採用人数の予定について、小学校の採用予定数の1割程度を考えています。全国状況につきましては、昨年、同様の特別選考を実施している県を調べたところ、16都府県で実施しておりました。

(新屋委員)

1割程度というのは、かなり大きいという気がします。もともと優秀な生徒さんであれば、通常の試験を受けても採用されそうな気がします。特別選考をすることの波及効果はどのようなものだと考えていますか。

(岡橋教職員課長)

大学関係の方にご説明をした際には、非常に歓迎をしていただきました。「こういった特別選考があるということを目指にして、学生が頑張るのではないか」とコメントをいただいております。また、優秀な学生は一般選考でも合格していただきたいところですが、全国的に、こういった推薦を実施する都道府県が増えている中、本県も優秀な学生を複数の選考で確保したいと考えています。

(高野委員)

1点目です。昨年度、工業を推薦にしたことについては、もともと、工業の学生が先生にならず、自分の専門の仕事に就く場合は多いと思いますので、それを、教員にするために推薦にしたことは分かります。しかし、小学校の教員に関しては、免許を取得して教員になろうという方が受験するわけです。推薦をしても、もともとの希望

者は変わらないかと思えます。推薦によって、受験者の数、質はどのくらい変わるのでしょうか。

2点目は、県内の大学に対象を絞っている理由は何でしょうか。

(岡橋教職員課長)

1点目については、各都道府県が同様の制度を活用しており、本県の大学にも募集をかけてきているということもありますので、他県と肩を並べて、優秀な人材を確保する方法の一つとしたいと考えております。

そして、2点目については、この制度は初めて実施しますので、まずは県内の大学のみを対象として実施し、今後、全国の大学に広げていくかどうかを検討していかなければならないと思っております。

(高野委員)

今年は県内大学、今後は全国の大学に広げていくということでしょうか。

(岡橋教職員課長)

今後については、全国の大学に広げていくかどうかも含め、今回の実施の状況を振り返り、検討していきます。

報告第2号 体罰に関する調査について（岡橋教職員課長説明）

県教育委員会では、平成24年度に文部科学省の要請により実施した体罰に関する調査を、平成25年度以降も独自に実施しています。資料の「1 発生件数及び処分状況等」をご覧ください。令和3年度の体罰は、小学校及び高等学校で各2件、計4件を確認しております。被害児童生徒数は小学校で5名、高等学校で10名の計15名であります。

体罰が発生した場面については、下の「2 体罰の場面」の表にありますとおり、部活動中が2件、授業中、ホームルームに1件ずつ起っております。具体には、小学校の事案については、1件目は、昨年6月、体育の授業中に運動場の隅で輪になって話をしている児童数名を注意指導し移動させようとした際、女子児童1名の背中に手を当て移動させようとしたが、当該児童が踏ん張り動こうとしなかったため、さらに背中を押したところ、児童はバランスを崩し膝から倒れ、左膝を擦りむく軽傷を負ったもの。2件目は、本年2月、掃除の前の心づくりの時間に、教室内で歌を歌っていた児童4名が隣のクラスの教員に注意されたことに腹を立てたクラス担任が、当該4名の児童の頭を手で押したものです。児童には怪我はありませんでした。また、高等学校の2件については、1件目は、生徒1名に対し、当該生徒の反抗的な態度や発言に感情的になり、部活動で生徒のお尻を蹴るなどの行為をしたもので、生徒には怪我はありませんでした。2件目は、部活動において、顧問の教員が、生徒とのコミュニケーションを図るため、複数の部員に対し頭を叩くなどの行為や不適切な発言したなどのことです。生徒には怪我はありませんでした。これら4件の体罰に対しましては、戒告の懲戒処分及び文書訓告の措置を行っており、厳しく指導したところであります。

なお、近年の体罰の件数は、1の末尾に参考として記載しておりますが、年間で2～6件発生している状況であります。体罰は、いかなる場合においても行ってはならないものであり、今後とも、体罰は絶対してはならない、体罰は指導法の一つではなく暴力であるということを教員が肝に銘じるよう、機会あるごとにしっかりと指導してまいりたいと考えております。

【質疑】

質疑なし

報告第3号 令和4年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について（北島学校指導課長説明）

はじめに、1の石川県立金沢錦丘中学校についてですが、適性検査を令和4年1月23日に実施いたしました。選抜方法につきましては、(2)にお示ししたように、小学校長から提出された調査書並びに、中学校において実施された選抜のための総合適性検査Ⅰ、これは言語に関する力を見るもの、そしてⅡ、これは自然や社会、数理に関する力を見るものですが、2種類の検査及び面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行いました。(3)選抜結果ですが、①に示しましたように、募集定員120人に対して、246人が受検し、うち、120人が合格しております。なお、受検倍率は、2.05倍でした。②の郡市別内訳については、金沢市が67人と最も多く、ついで白山市・野々市市が40人で計107人、この3市で、全体に占める割合は89%となっており、これまでとほぼ同様の傾向です。

次に、資料の7ページをご覧ください。2の石川県公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告します。まず学力検査等は、資料(1)にお示しした期日で実施いたしました。(2)の選抜結果であります。①の公立高等学校全日制については、募集定員7,520人に対し、推薦入学等の内定者587人、一般入学の合格者5,907人、合わせて6,494人が合格しました。なお、欄外にあります追検査等については、受検者は30人、合格者は21人でした。②の定時制については、募集定員480人に対して、190人が合格しております。③の通信制については、募集定員240人に対して、51人が合格しております。また、各学校別合格者数の状況につきましては、資料の8ページから9ページに全日制を、10ページに定時制・通信制を掲載してございます。

最後に、資料の11ページの、(4)全日制の合格者の得点状況をご覧ください。今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示ししたように、5教科合計の平均点は235点でした。なお、令和3年度は254点、さらに、表にはお示ししておりませんが、令和2年度は228点でした。このように、年によって多少の増減が見られる結果となっております。5教科合計の分布は、昨年と比べて350点～399点の層が薄くなっておりますが、全体の分布を見ると受検生の学力を適切にはかれる検査ができたものと考えております。令和5年度の学力検査においても、課題を解決するために必要な活用力など、中学校における授業の中で身につけるべき学力の方向性を示すとともに、今回の結果を踏まえ、小学校や中学校で学んだ力を的確に把握できるよう適切な出題に努めて参りたいと考えております。

【質疑】

(高野委員)

推薦枠についてですが、倍率が1倍を超えている学校で推薦枠があることは有効だと思うのですが、能登地区などの0.5倍前後の学校で推薦枠を設けているのはなぜなのでしょう。

(北島学校指導課長)

我々も分析しているところですが、この10年で職業学科の出願者数は増えてきてお

り、一方、普通科等の学科は出願者数が減少しているなどのデータや、地域バランスを考え、受験生や保護者のニーズも変化してきていますので、今後ともニーズの把握に努めていきたいと思えます。

(高野委員)

倍率が1倍を前後している学校はよいのですが、例えば、門前高校や能登高校などの学校に、推薦枠が必要なのかなと思えます。推薦入試が無ければ、学校の負担も減るかと思えます。

(北島学校指導課長)

少ない人数ではありますが、推薦を希望している方もおります。学校側の希望も合わせて、ニーズは少ないですが、無いわけではないという状況を踏まえて考えていきたいと思えます。

(眞鍋委員)

通信制の泉丘高校の衛生看護学科についてですが、受験者数が0名ですが、これは例年どのような変化があるのでしょうか。また、この学科は何か資格を取得できる場所なのでしょうか。もし、あまりに受験者数が少ないということであれば、時代に合っていないということではないかなど、そういった検討はありますか。

(北島学校指導課長)

昨年も0名ですが、一昨年は1名おりました。0名の年もありますが、1名、2名と受験者がいる年もあります。衛生看護学科は、石川県立総合看護学校の准看護学科の在籍及び入学予定者で、泉丘高校の通信制と技能連携によって学習する生徒のための学科です。准看護学科に中学校から入学する子供たちは、この泉丘高校の衛生看護学科にも籍を置くことによって技能連携ができます。

(眞鍋委員)

そういうことであれば、受験生がいた時のために、必ず準備しておかなければならないということですね。分かりました。

(新屋委員)

全日制の高校について、以前からあったとは思いますが、生徒の普通科志向があるかと思えます。今年度の専門高校の倍率が、昨年比で目立つところがあります。分析は難しいところもあるかと思えますが、全体的な傾向として、何か捉えていることはありますか。対策と言っても、生徒が選ぶことですから難しいと思えますが、そういったことはしていますか。

(北島学校指導課長)

専門高校、特に工業に関する学科が倍率を昨年より下げていることが見えてきます。確かに難しいところで、これからも分析が必要なのですが、工業高校の先生から意見を聞いたところ、コロナ禍の状況にあって、中学生の保護者を招いて実際に工業高校の生

徒がいきいきと実習をする様子を伝える学校見学会であったり、工業高校の生徒が中学校に出向いて出前授業であったり、工業実習の魅力を直に伝えることのできるオープンキャンパスが実施できなかつたり、縮小したりという状況でした。いきいきとした生徒の姿が、工業高校の特色や魅力を伝える一番の方策だと思うのですが、そうした機会が少なかったのではないかと考えています。今後とも、本県ものづくり産業を下支えする工業高校の重要性を周知したり、魅力発信に努めていきたいと思ひます。

(新家委員)

錦丘中学校の受験倍率ですが、1割近く上がっています。コロナ前に錦丘中学校・高校を教育委員で視察させていただいて、いろいろな工夫をされていることが分かりました。県立で中高一貫校を設けた理由があるかと思ひますが、それが順調にきているから倍率も上がっているのだろうと想像しています。今、答弁はよろしいですので、教育委員会として、どこかで、中高一貫校を設けた目的に対して、現状はこういう状況だということを経括して、報告していただけるとありがたいと思ひます。

(浅蔵委員)

中学校を卒業される生徒さんは毎年減少傾向にあるかと思ひますが、公立高校を受けたい生徒さんの割合はどのようになっているのでしょうか。私立高校を専願で受験するような生徒さんは増えているのでしょうか。

(塩田教育次長)

今年度は、全中学校卒業生に対して、公立の全日制の合格者の割合が64.3%です。同じく、昨年度は65.3%、一昨年は66.5%となっています。この数字を見る限り、公立の高校に入学する生徒はやや減少傾向にあり、裏を返せば、私立の高校に流れているという可能性はあると思ひております。ですから、公立高校の魅力を高め、発信していくことが求められていくと思ひております。

報告第4号 令和2年度～令和3年度石川県社会教育委員の会議のまとめについて
(岩木生涯学習課長説明)

令和2年度から2年間にわたり「住民の主体的な参画による持続可能な社会・地域づくりを目指して」をテーマに協議いたしました。昨今、人口減少や高齢化、社会環境の大きな変化に伴い、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立の拡大や町内会等での役員不足、地域行事の担い手の不足が大きな課題となっており、そのような状況で、地域課題の解決には、社会教育における学びを通じた住民主体の地域づくりが求められていることから、「地域づくり」に向けた「人づくり」・「つながりづくり」の具体的方策をテーマとして設定し協議していくことといたしました。

1年目は、本会議の議長である、浅野秀重金沢大学名誉教授の講義や県内外の事例をもとに協議しました。1枚目の資料の下段にあります「令和2年度の協議から見えてきたもの」をご覧ください。「地域の担い手の育成」として、地域の現状を把握し、課題解決していく実践力を養う学びが重要であること、「地域住民が議論する場」を設けるには、日頃からコミュニケーションをとり関わる機会が重要であること、住民主体な参画を促すために「事業の見える化」が重要であることなど、3点が1年間の協議の結果から見えてきました。

次のページをご覧ください。2年目は、更に協議を深めるため、地域づくりに取り組んでいる先進事例をもとに検討を進めた結果、地域住民が課題解決に向けた、ゴールとプロセスを共有し、持続可能な取組とする手立ての1つとして、事業が見える化できる「シート」の必要性が確認されました。そこで、地域づくりを進めていく上で、地域の現状を分析し、地域の資源を知ることができる「地域分析シート」と、それを基に地域づくりに向けた具体の事業を計画する「企画シート」を作成することといたしました。第7回の会議では、このシートを試行して頂いた、公民館主事や社会教育担当の行政職員から、「シートはPDCAに役立ち、マンネリ化からの脱却に有効である」「より多くの方が活用するには研修会が必要である」「事業が見える化されているので公民館への補助金申請様式として活用できる」など、シートの有効性や改善点が提起されました。また、完成したシートの活用についても協議を重ねました。お手元の緑色のまとめ冊子をご覧ください。16ページには「地域分析シート」、17ページには「企画シート」を記載しています。10ページ・11ページには記載方法、さらに12ページ・13ページには記載例も記載しております。この緑色のまとめ冊子は、3月末に2,000部を作成し、各市町教育委員会や公民館、社会関係団体等に配布させて頂いております。

資料下段の「4 今後の方向性」をご覧ください。県教育委員会といたしましては、社会教育委員の会議で頂いたご意見を今後の施策に反映させ、公民館や団体等が実情に合わせ、「いしかわ地域づくりシート」を使いやすいようにアレンジし活用できるようにすること、公民館職員や社会教育関係者を対象とした「いしかわ地域づくりシート」を活用した、地域づくりの手法を学ぶ講座の開催や市町の要請に応じて、県の職員を公民館や地域に派遣し出前講座の開催をすることなど、シートを活用した地域づくりを広く支援していく予定であります。

【質疑】

(眞鍋委員)

このシートは、大変すばらしいものをお作りになったと思います。もちろん、課題にもありましたが、なかなか、すぐに使えるものではないと思いますので、研修会ですとか、現場の方が使いやすいように作り変えるなど、工夫をしながら、ぜひ県下の公民館で取り組んで、広げていただければと思います。

(岩木生涯学習課長)

今後、このシートを活用していただくために、今月28日の社会教育主幹課長会議で、研修会を実施しようと考えております。また、シートの演習も交えながら周知していきたいと思います。7月には地域づくりサポートとして、シートを活用した地域づくりを学ぶ出前講座の募集をしていき、活用していただけるように努力していきたいと思います。

報告第5号 令和3年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について
(居村保健体育課長説明)

令和3年度全国高等学校選抜大会等につきましては、東京都をはじめ、21都道府県におきまして、令和3年12月23日から令和4年3月31日までの期間で競技ごとに開催され、本県より27競技に選手381名が参加いたしました。成績は、団体では、ハンドボールの女子で小松市立高校が2位、相撲で金沢学院大学附属高校が3位に入賞するなどの活躍がみられました。個人では、少林寺拳法の男子規定組演武で小松工業高校の池田選手、深澤選手が優勝、相撲で金沢学院大学附属高校の篠選手、少林寺拳法の男子規定組演武で小松工業高校の畠山選手、池田選手、同じく女子規定組演武で小松工業高校の竹下選手、碓山選手、レスリングの男子71kg級で志賀高校の角出選手、同じく男子125kg級で志賀高校の能瀬選手が準優勝したほか、記載しております計6競技において8位以内に入賞しました。

今後、夏のインターハイや秋の栃木国体など本県の高校生の活躍を期待するとともに、県高体連をはじめ関係団体との連携を一層深め、効率的・効果的な運営による運動部活動の充実に努めてまいりたいと存じます。

【質疑】

(新屋委員)

ボクシングのピン級は、どのような階級でしょうか。

(居村保健体育課長)

ボクシングは、フライ級やバンタム級などの体重別のクラスで分かれており、一番軽量のクラスです。

(北野教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第8号 人事異動について

北島学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

北野教育長が閉会を告げる。